

# おおせっからんど便り

NPO 法人おおせっからんど  
第 32 号 2024 年 8 月



オオヨシゴイ 写真：叶内拓哉

## 仏沼と私

叶内 拓哉（野鳥写真家）

後期高齢者の私が野鳥撮影を始めたのは大学を卒業した1年後からなので、もう、軽く55年以上になる。これまでに、日本中のあちこちへ野鳥撮影に出かけ、何度出かけても嬉しくて、楽しくて、どんな鳥との出会いがあるかとワクワクしてしまう場所はいくつもあるが、いつの間にか環境が変わり、鳥影が少なくなってガッカリしてしまう場所も増えてきている。

だが、仏沼は今も、初めて訪れて、初めてオオセッカを見たときと同じような気持ちを味わえる数少ない場所である。初めて仏沼を訪れたのは確か1977～1978年頃で、もちろん、それからの仏沼の過酷な変化は承知しているが、仏沼を愛する地元の皆さんと出会えたことがとても大きかった。現在の「野鳥観察ステーション」の前身である「観察小屋」の建設時から、東京の私の鳥仲間達も巻き込んでかわらせてもらい、宮彰男氏をはじめ

めとした八戸野鳥の会の皆さんとの楽しいお付き合いが今も続いていることが仏沼と私のつながりの全てだ。

また、仏沼で出会う鳥はとにかく魅力的で、近年ではほとんど見られなくなったオオヨシゴイに少々翻弄されたことや、水路に落ちたクイナの雛を助けたことなどは、今も忘れられない思い出だし、オオセッカだけでなく、シマクイナやコジュリン、チュウヒなどなど、まだまだ、見たい、撮影したい鳥がたくさんいる。そして、鳥以上に魅力的な面々も目白押しで、本当に宝物のような大切な場所だ。これからもずっと通う事になるだろう。

叶内 拓哉（かのうち たくや）

1946年東京都三鷹市生まれ。1968年東京農業大学農学部農学科卒業。卒業後9年間造園業に従事。その後フリーの野鳥写真家となる。（財）日本野鳥の会会員。自治体や企業主催の自然観察会などで、野鳥観察や野鳥写真の撮り方などを指導する機会が多い。東京都調布市在住。「山溪ハンディ図鑑7 日本の野鳥」（山と溪谷社）、「野鳥と木の実ハンドブック」（文一総合出版）他、図鑑類などの著書多数。

# 2024年度オオセッカ一斉カウントの調査結果

高橋 雅雄（NPO 法人おおせっからんど理事）

生息鳥類個体数調査（オオセッカ一斉カウント）は、① 仏沼のオオセッカの個体数と分布の変動と、②繁殖期の鳥類相、特に絶滅危惧種の生息状況を明らかにすることを目的に、1982年から断続的に、2003年から継続的に実施している、当法人の最も重要な活動の1つです。仏沼を14調査区に分け、当法人会員を中心とした数名の調査チームが各担当区を早朝2-3時間ほどくまなく歩き、確認できた全種全羽を記録して集計します。2008年からは、大間町～八戸市の青森県東部全域（下北・三八上北）で、オオセッカとコジュリンの個体数と分布も同時に調べています。毎年6月最後の日曜日に開催し、今年は6月30日に実施しました。日本野鳥の会本部・北里大学自然界部・岩手大学・北海道教育大学などから計58名がご参加くださいました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

調査の結果、仏沼で45種の鳥類が確認され、そのうち国や県のレッドリスト掲載種はウズラ・サンカノゴイ・チュウヒ・コジュリンなど7種でした。オオセッカは仏沼で雄370羽が、青森県東部全域で雄613羽が確認され、雌雄は同数生息すると考えられるので、成鳥の生息数は仏沼で740羽、青森県東部全域で1226羽と推定されました。いずれも昨年とほぼ同じで、増減は特に



写真：佐々木紀元

認められませんでした。

仏沼のオオセッカは、調査を初めて実施した1982年（雄79羽）から徐々に増加し、2011年に過去最多（雄690羽）となり、その後は減少傾向が続いています。この減少の理由ははっきりとは分かっていませんが、繁殖地（仏沼）については、特別保護地区（ラムサール指定区域）の北半分で湿性草原環境の乾燥化が2016年から進み、繁殖活動への悪影響が懸念されています。当法人が今年から本格的に実施している乾燥化対策事業で、乾燥化が少しでも緩和されることを期待します。

来年は仏沼がラムサール条約登録湿地になって20周年です。調査は2025年6月29日の予定ですので、ご協力を引き続きお願いいたします。

## 仏沼で生息する代表的な鳥

### オオセッカ

東アジアに分布し、日本では東北地方と関東地方の5ヶ所の湿性草原だけで繁殖し、本州・四国・九州で越冬します。河川敷や耕作放棄地などのヨシ原や湿性草原に生息し、下草が豊富な植生環境を好みます。



### コヨシキリ

東アジア北部で繁殖し、中国南部や東南アジアで越冬します。日本では北海道～九州の低地～山地のヨシ原や湿性草原で局地的に繁殖し、北日本で比較的多く見られます。仏沼では最も多い鳥ですが、全国的には減少しています。



### オオジュリン

ヨーロッパ～東アジアのヨシ原や湿性草原で繁殖し、冬は南下します。日本では北海道と東北地方北部で繁殖しますが、東北地方の繁殖地は仏沼と岩木川河口（青森県）、大潟草原（秋田県）の3ヶ所だけです。水辺に近く枯草が多い草原を好みます。



### ウズラ

東アジアに分布する小型のキジ類です。日本では北海道と東北地方北部で主に繁殖し、関東地方以南で越冬します。河川敷や牧草地などの乾燥した草原を好みます。各地で激減し、仏沼はウズラが毎年観察できる本州唯一の繁殖地です。



文：高橋雅雄 写真：三戸貞夫

## 調査で確認できた鳥一覧（45種）

▼キジ目キジ科 | キジ、ウズラ ▼カモ目カモ科 | カルガモ ▼ハト目ハト科 | キジバト ▼カツオドリ目ウ科 | カワウ ▼ペリカン目サギ科 | アオサギ、サンカノゴイ ▼ツル目クイナ科 | クイナ、オオバン ▼カッコウ目・カッコウ科 | ホトトギス、カッコウ ▼アマツバメ目アマツバメ科 | アマツバメ ▼チドリ目チドリ科 | コチドリ、ムナグロ ▼チドリ目シギ科 | イソシギ ▼タカ目タカ科 | トビ、チュウヒ、ノスリ ▼ブッポウソウ目カワセミ科 | カワセミ ▼キツキ目キツキ科 | アカゲラ、コゲラ ▼スズメ目モズ科 | モズ ▼スズメ目カラス科 | ハシブトガラス、ハシボソガラス ▼スズメ目シジュウカラ科 | シジュウカラ ▼スズメ目ヒバリ科 | ヒバリ ▼スズメ目ツバメ科 | ツバメ ▼スズメ目ヒヨドリ科 | ヒヨドリ ▼スズメ目ウグイス科 | ウグイス ▼スズメ目メジロ科 | メジロ ▼スズメ目センニュウ科 | オオセッカ ▼スズメ目ヨシキリ科 | コヨシキリ、オオヨシキリ ▼スズメ目ムクドリ科 | コムクドリ、ムクドリ ▼スズメ目ヒタキ科 | アカハラ ▼スズメ目スズメ科 | スズメ ▼スズメ目セキレイ科 | ハクセキレイ、セグロセキレイ ▼スズメ目アトリ科 | カワラヒワ ▼スズメ目ホオジロ科 | コジュリン、ホオアカ、アオジ、オオジュリン、ホオジロ

●劇団シンデレラ公演「おかえり！おおせっか」  
6月29日（土）の調査前夜祭では、愛知県一宮市を拠点とする劇団シンデレラによるミュージカル公演が観察ステーションで開催されました。7人の子どもたちによる、仏沼のオオセッカをテーマとしたオリジナル作品で、歌とダンスで楽しい時間を届けてくれました。また、オオセッカ役が着る衣装は、羽が広がって透き通るような様子を思い起こすような表現がされていました。劇団シンデレラは、自然保護や環境保全をテーマにした上演を行っており、全国のラムサール条約指定湿地 53 箇所を巡ることを目標としているとのことです。

（大澤苑美）



## オオセッカの和名、学名、英名の意味

出河 守康（NPO 法人おおせっからんど副理事長兼事務局長）

オオセッカは当法人おおせっからんどの名前の元となる鳥の標準和名です。標準和名とは日本鳥学会が発行する日本鳥類目録に掲載されている日本語の名前です。

オオセッカ、漢字では大雪加が当てられ、その意味するところは大きなセッカです。セッカはより普通に見られる鳥で、宮城県以南に生息するセッカ科セッカ属の小鳥で、青森県では「青森県の鳥獣」（青森県 1978）、「青森県鳥獣生息状況調査報告書（鳥類）」（青森県 1982）によりますと、青森県東部および廻堰大溜池で記録があることになっています。このセッカという鳥には雪下または雪加の漢字が当てられます。雪下は下面、胸から腹にかけて雪のように白いことから、また、雪加は雪を加える、この加えるは啞（くわ）えるの借字で、巣材となるチガヤの白い穂を口に啞えて運ぶ様子を雪を啞えているようだとされたためと考えられています。

さてオオセッカに話を戻しますが、オオセッカの学名は日本鳥類目録第 8 版掲載種（日本鳥学会 2023 公表）によりますと、*Locustella pryeri* とされています。*Locustella* は *Locusta* がラテン語でバッタのこと、*lla*

は縮小詞で小さいことを示し、小さなバッタのような鳴き声を表すとされます（「鳥類学名辞典」内田誠一郎・島崎三郎 1987）。*pryeri* は人の名前で、横浜に在住し、日本各地で鳥や蝶を採集した貿易商 Henry Preyer 氏が捕獲して得られた標本を H. Seeböhm 氏が学名を付けて発表する際に、標本を提供した Preyer 氏に敬意を表して学名にその名前を入れたことによります（献名といえます）。なお、Seeböhm 氏は最初学名を付けるときに *Megalurus* 属（*megalo* はギリシャ語で大きな、という意味）としていました。その後、分類上それとは異なる属に含める説も提唱されたことがありましたが、現在は分子系統からも、*Locustella* 属が妥当だとされています。

英語圏ではオオセッカのことを、Marsh Grassbird、Japanese Marsh Warbler、Pryer's grass warbler、Japanese Swamp Warbler などとしています。*marsh* は沼地、*grass* は牧草やイネ科などの細い葉の草またはそのような植物からなる草原、*warbler* は声を震わせて歌う者が転じてムシクイ類やセンニュウ類などを指すようになったようです。

## 教えて！野鳥撮影③ — RAW 現像 —

秋のパネル展に向けて、写真を作品に仕上げるためのひと手間を覚える

**のりり**：そのみんなも、秋に航空科学館で行う仏沼パネル展に作品を出してみたらどうですか。RAW データを現像して、クオリティアップしましょう！

**そのみんな**：ドキッ。いつも jpeg 形式でしか保存してなかったなあ。

**のりり**：RAW データだと、明るさやコントラスト等の調整、ノイズの除去など多くのことができます。写真編集ツールは色々ありますが、カメラメーカーが無料で提供している PC 用の編集ソフトから始めてみましょう。そのみんなのカメラは Canon だから、Digital Photo Professional というソフトがあります。まずは現像する写真を選定します。大きなモニター画面（おすすめは 27 インチ以上）で画質を確認しましょう。撮った写真を 200% に拡大し、ノイズ、手ブレ、ピントをチェック。四切サイズに引き伸ばすのに適した写真を選んでください。

**そのみんな**：ピントも合って、表情の良いものがありました。でも、ISO 感度が高いので画像がザラザラしていてノイズが目立ちます…

**のりり**：そういう時は、輝度ノイズ緩和や、色ノイズ緩和の値をあげてみて、ノイズが緩和されるか試してみてください。

**そのみんな**：わっ、グッと良くなりました。感動！

**のりり**：その調子で、明るさやシャープネスも調整してみましょう。羽毛の流れがはっきりしたり、曇りの日でも明るい雰囲気が出たりします。さらに、有料ツールの Adobe Lightroom などを使うと、鳥の顔の部分のみハイライトを調整するということに、細かい調整ができます。でも、いくら現像で好みに調整できると言っても、ピンボケや手ブレは直せないの、撮影の基本はお忘れなく。

**そのみんな**：現像をすることで、単なる観察記録写真ではなく「野鳥写真作品」に仕上げられそうですね！

カメラ超初心者そのみんなが、のりり先生から基本とコツを教わる紙面写真講座。



(左) 現像前 (右) 現像後  
露出を調整。輝度ノイズ緩和の目盛をあげた。



(上) 現像前 (下) 現像後  
シャープネスと露出を調整。羽毛がはっきりした。

## お知らせ (活動報告) — 小学校の仏沼見学を実施しました —

今年も三沢市内 3 校の仏沼観察会を実施しました。

そのうち、三沢市おおぞら小学校は仏沼の一番近くにある小学校です。朝 10 時に津曲と担当の木村とで 3 年生の生徒 18 名と一緒にスクールバスに乗って仏沼へ出かけました。北側の駐車場でバスを降りると、小鳥の鳴き声が耳に飛び込んできます。看板の前でラムサール条約のことを学習し、望遠鏡を見る練習として遠くの鉄塔の上で子育てしているミサゴから観察を始めました。巣のそばでヒナの世話をしている様子が手に取るように見えて子供たちは感激したようでした。さえずるオオセッカやコヨシキリの声を聞きながら仏沼の散策を始めまし

た。オオセッカがさえずりながら飛び上がる姿をしっかりと見ようと鳴き声のする方向を必死に探し、歓声を上げる子供たち、見逃した友達に探すコツを教える子、1 学年 1 クラスの小さい学校だけにチームワークはバッチリ、ウズラも見ることができました。短い時間でしたが和気あいあいの観察会でした。(津曲隆信)



[観察会実施実績]

- ◇三沢市立岡三沢小学校  
2024 年 6 月 19 日、24 日午前、25 日
- ◇三沢市立上久保小学校  
2024 年 6 月 24 日午後、26 日
- ◇三沢市立おおぞら小学校  
2024 年 7 月 8 日

■日程が決まりました  
おおせっからんど仏沼パネル展  
11 月 16 日 (土) ~ 24 日 (日)  
青森県立三沢航空科学館  
お楽しみに！



制作発行：特定非営利活動法人おおせっからんど  
〒 031-0823 青森県八戸市湊高台三丁目 15 番 5 号  
Mail: mori.degawa@gmail.com  
Web: <http://www.oosekka.com>  
編集：蟹沢格 紙面デザイン：大澤苑美

編集後記：

暑い毎日ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。仏沼は夏鳥から渡り鳥の季節に移行しつつあります。私はウズラシギを初めて見ました。(蟹沢) 望遠レンズしか持たないので鳥以外はほぼ撮らないのですが、先日騎馬打毬がよく撮れて大満足。でも、もひとつレンズ買おうと思います...(大澤)